

農業・農村振興長期計画重点プロジェクトに係るトピックス

1. 次代を担う人材・体制づくり

産地ぐるみの事業承継による担い手の誘致

2. 生産性の高い農業の展開

農地の集積と集約化に向けた取組

3. 持続性の高い農業・農村の実現

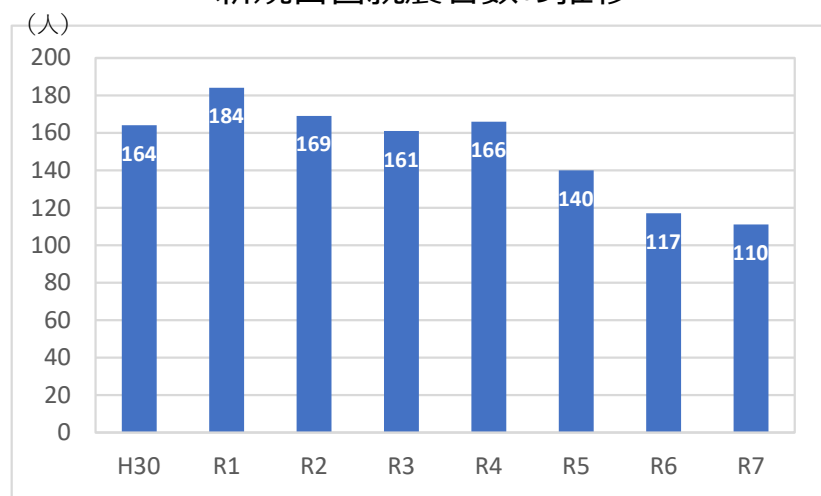
中山間地域の特色ある産地づくりと所得確保対策

令和8年8月 農政水産部

1. 産地ぐるみの事業承継による担い手の誘致

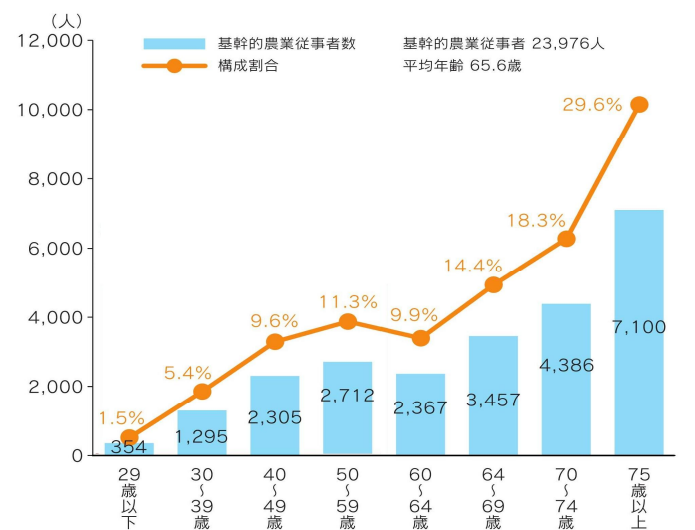
- 近年の資材価格高騰の影響や他産業との人材獲得競争の激化等により、新規自営就農者が減少傾向
- 新規就農者の就農時の課題は「就農地の確保」「資金の確保」「技術の習得」
- 基幹的農業従事者の7割以上が60歳以上で、今後離農者が増加する見込み

新規自営就農者数の推移



宮崎県新規就農者数調査

基幹的農業従事者数の年齢構成



2025年農林業センサス

【新規就農者の課題】

- ・ 就農地の確保
- ・ 初期投資負担の軽減
- ・ 農業技術の習得

【産地の課題】

- ・ 担い手の減少による生産力の低下
- ・ 遊休農地、遊休ハウス等の増加

このため、**生産部会等と連携**し、離農予定者の経営資源（ハウスや果樹園等）を活用して新規就農者を呼び込み、先進農家による技術研修を行う、**産地ぐるみの事業承継**の取組を推進

- **離農前から**部会員の承継意向を把握し、計画的にハウスや果樹園等の経営資源を就農希望者や規模拡大志向の担い手等に引き継ぐ、**産地ぐるみ**の承継の仕組みを構築
- **美郷町の完熟さんかん部会**では、中古のハウスや果樹園の活用による、**就農地の事前確保や初期投資費用の低減**、部会内に設置した**農家アドバイザーによる営農サポート**により、新規就農者の受け入れと経営安定を支援（現在1名受入中）

● 産地ぐるみの事業承継の流れ



Point

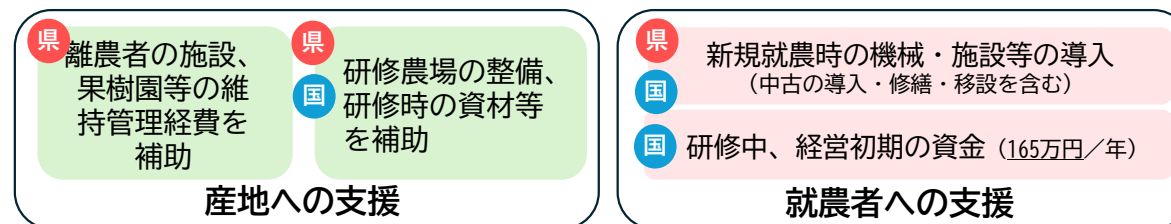


- 個人間でなく、産地を維持するための取組として、産地の合意のもと承継の取組を推進
- 離農前から意向を把握し、技術等経営全体を承継
- 農家アドバイザーによる営農サポート体制



美郷町完熟さんかん部会役員会・総会 R8. 6. 10

切れ目ない支援による確実な誘致・定着（国・県の支援策をフル活用）



J A、市町村、普及センターの一体的な支援



※JAこばやしマンゴー部会では、産地ぐるみの承継で県外移住者（夫婦）を受入

2. 農地の集積と集約化に向けた取組

(1) 農地の集積と集約化

- 持続的な農業構造や経営体の規模拡大を実現するため、認定農業者等の担い手への**農地集積**を推進。
- 今後は、担い手への農地集積とともに、生産性の高い農業を展開するため、**農地の集約や区画の拡大**等の取組を強化することが重要。

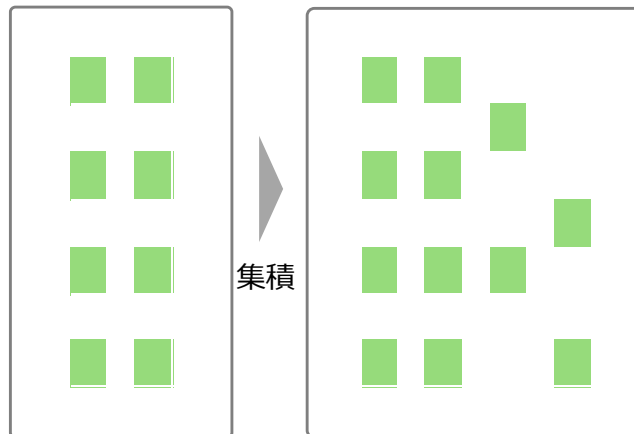
集 積

担い手が、農地を所有又は借り受けることにより、経営面積等を拡大すること

担い手に農地を集積する

耕作者 A の面積が80a

120aに拡大

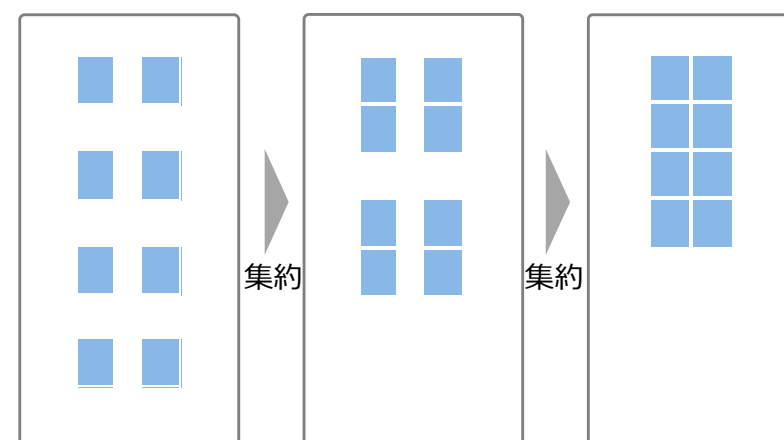


集約化

農地の分散を解消することで農作業の効率化を図ること

農地を近くに集め、集約する

農地の交換などにより農地を近くに集める

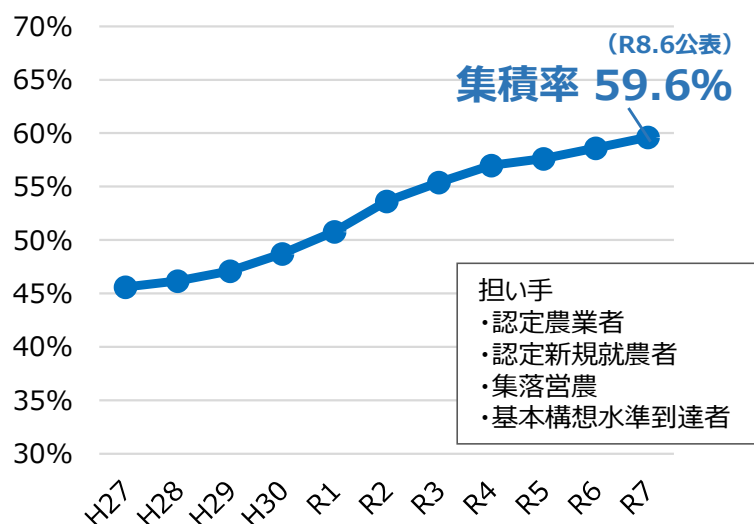


(2) 担い手への集積率の状況

$$\text{担い手への農地集積率} = \text{担い手への農地集積面積} \div \text{耕地面積} \times 100$$

担い手への集積率 (%)

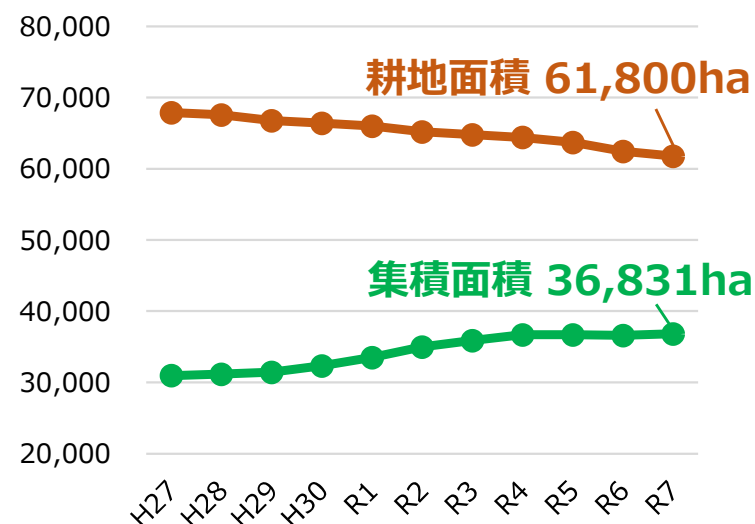
- ・ 集積率は上昇



※出典：農地中間管理機構の実績等に関する資料（農林水産省）

耕地面積と担い手への集積面積 (ha)

- ・ 耕地面積は減少
- ・ 担い手への集積面積は増加から横ばい



R7年度末の集積率は、**全国で11位、九州で2番目の高さ**
しかし、担い手への集積面積は**近年横ばい**

農地を遊休化させず、担い手の規模拡大を実現するためにも
生産性向上に繋がる「集約化」が重要

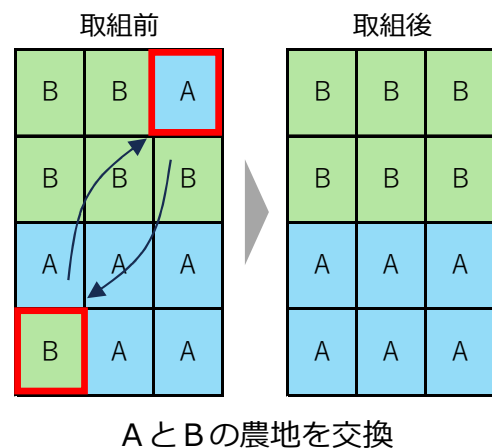
(3) 集約化を進めるための取組強化

- ・ 今年度から、集約化を重点的に支援する「**集約化重点支援地区**」を26カ所設置
- ・ 県・市町村・農業委員会・農地バンク等の農地・基盤整備部門等で**支援チーム**を設置し、集約化の事例創出と地域への波及効果を狙う
- ・ **畦畔除去等の簡易な基盤整備**による農地の区画拡大を推進

【集約化重点支援地区で実施する3つの取組】

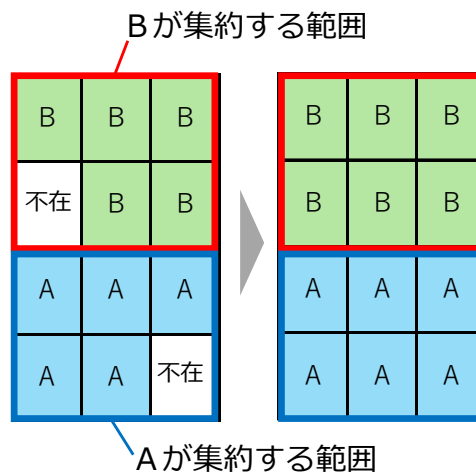
パターン① 農地の交換

複数の耕作者同士で、お互いの農地を交換し、自作の農地を近くに集める



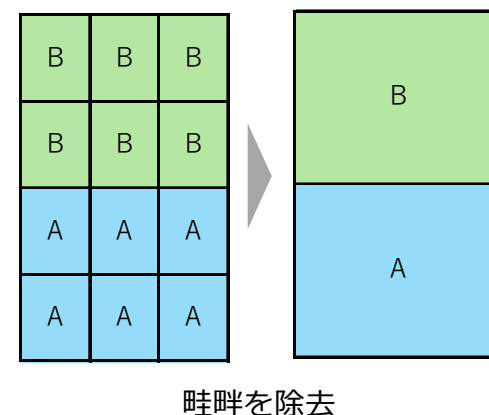
パターン② 範囲の設定

将来集約する範囲を決め、離農等で耕作者が不在になった時に、農地を引き受ける



パターン③ 区画の拡大

隣接している自作の農地の畦畔を除去し、区画を拡大



(4) 具体的な取組事例

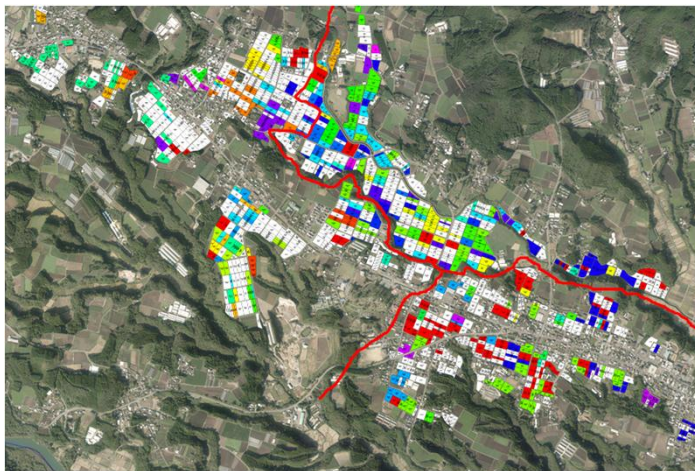
① 集約する範囲の設定と農地の交換

小林市の集約化重点支援地区では、耕作者の「**将来農地を集約したい範囲**」を定め、その範囲に基づいた農地の受け入れや、交換を進めることで、**規模拡大や集約による生産性向上**を目指す。

【チーム構成員】小林市、農業委員会、農業振興公社（駐在員）、土地改良区、県振興局（農地部門、基盤整備部門）

4～7月

- 面積 1 ha以上の耕作者を抽出（約30名）
- 水田台帳等の農地データを収集し地図を作成
- 農業委員や土地改良区の理事に対し、取組の概要や役割等について説明



【耕作者毎に色分けした地図】

8～11月

- 対象者に対し、現耕作地及び集約したい範囲の聞き取り（8月下旬予定）
- 関係機関による耕作者間の集約したい範囲の調整

12月以降

- 耕作者毎の「集約したい範囲」の合意形成
- 作成した地図をもとに、農地の引き受け、交換を実施



【農業委員や土地改良区の理事に説明する様子】

② 畦畔除去等による区画の拡大

活用事業：県単農地集約化基盤整備事業（令和7年度 都城市）

整備状況：整備前＝農地 2 枚（17a , 34a）⇒ 整備後＝農地 1 枚（51a）

事業内容：整地工＝51a（畦畔除去含む）

：助成額＝51万円（標準施工費の1/2を県が助成）

※標準施工費：標準的な作業内容、作業量等を想定して算出した費用



【整備前】



【整備後】

畦畔除去の施工状況



【畦畔除去前】



【施工状況】



【畦畔除去後】

今後は、「大区画化等加速化支援事業（R7国創設）」も活用し、更なる加速化

【参考】大区画化等加速化支援事業の概要

- ・ **支援内容**

ほ場の区画拡大に向けた畦畔除去等、
農業者が自ら行う簡易な基盤整備に対し助成（定額単価を上限）

- ・ **事業実施要件**

- ①地域計画策定エリア内の農振農用地
- ②農地の区画拡大を図ること

- ・ **事業の流れ**



※県内26市町村を含む関係機関を構成員とし、R8.3.27設立
（事務局：宮崎県土地改良事業団体連合会）

- ・ **事業活用によるメリット（従来の取組との違い）**

	従来のは場整備事業（県営の例）	【新事業】大区画化等加速化支援事業
面積要件	あり（20ha以上）	なし
事業採択までの期間	長い（5年程度）	短い（1年程度）
事業実施期間	長い（平均10～15年程度）	短い（1年～3年程度）
農業者負担金	大	小
市町村の予算措置	要	不要

- ・ **事業期間**

令和7年度～令和11年度 ※国の農業構造転換集中対策期間内

3. 中山間地域の特色ある産地づくりと所得確保対策

(1) 基本的な考え方（共通）

中山間地域は、農地の区画が小さい、傾斜地が多いなどの地形的制約の一方で、清らかな水、冷涼な気候といった優れた自然環境を有していることから、それらの特性を生かした営農を推進するとともに、農業・畜産・林業を組み合わせた複合経営により安定した所得を確保しつつ、小規模農家をはじめとした多様な経営体がそれぞれの理想とする農業経営の実現を支援

(2) 農業の振興

農業では、冷涼な気候や昼夜の寒暖差といった条件を生かし、夏秋野菜、花き、果樹をはじめとする収益性の高い農産物の生産や、有機栽培・加工など需要に応じた高付加価値化を推進

(3) 畜産の振興

畜産では、限られた農地で立地環境を最大限に生かした、肉用牛やブロイラー経営を推進

肉用牛における傾斜地などを活用した放牧は、労働時間や飼料費の削減に加え、耕作放棄地の解消や景観維持等の多面的機能の発揮が期待され、また、ブロイラーでは、雛供給から流通販売までのインテグレーション体制による総合的な管理により、平場と同等の収益性を確保

①野菜・花き

県の取組

- 雨よけハウス整備などの安定生産対策を講じながら、夏季冷涼な気候を活かし、**野菜では夏秋ミニトマトや夏秋ピーマン、花きではラナンキュラスやホオズキなどの生産を推進**
- 近年、温暖化に伴う高温障害が課題となっていることから、**細霧冷房や遮光・遮熱資材などの暑熱対策の取組**を支援

『ミニトマト経営』

- ・東臼杵地域
- ・複合経営 : ミニトマト+七草+椎茸
- ・面積 : ミニトマト20a
- ・労働力 : 家族経営3名+臨時雇用3名(繁忙期)
- ・農業所得 : 約600万円
(うちミニトマト約400万円)
- ・具体的な取組
 - ▷ 採光性の高い栽植様式の導入や、草勢に応じた細やかな肥培管理等により、収量・品質を確保
 - ▷ ミニトマトと七草による施設の年間稼働、椎茸との組み合わせによる安定経営を実現



＜ミニトマト栽培＞



＜七草＞

『ラナンキュラス経営』

- ・西臼杵地域
- ・複合経営 : ラナンキュラス+ピーマン+りんどう
- ・面積 : ラナンキュラス15a
- ・労働力 : 家族経営4名
- ・農業所得 : 約450万円
(うちラナンキュラス約340万円)
- ・具体的な取組
 - ▷ 地域限定のオリジナル品種導入や、選別の徹底、細霧冷房による暑熱対策などで安定生産を実現



＜ラナンキュラス栽培＞



②果樹

県の取組

- 露地果樹では、くり・ゆずを中心に、**加工業者と連携した生産と加工による産地づくり**を推進
また、施設果樹では、**完熟きんかんの高品質生産と輸出に対応した園地づくり**を推進
- 生産者の高齢化や減少、園地管理・収穫作業の負担などが課題となっていることから、**園地等経営資源の承継や省力化に向けた技術・機械の導入**などを支援

『くり経営』

- ・西臼杵地域
- ・面積 : 2 ha
- ・労働力 : 家族経営 2 人
- ・農業所得 : 約400万円 (くり)
- ・具体的な取組
 - ▷ 加工向けくりを基幹品目に、繁忙期が分散する椎茸との複合経営
 - ▷ 実需者ニーズ (栗きんとん等) に適した品種を早生から晩生までバランスよく栽培
 - ▷ 計画的な改植による樹勢の維持と収量の確保



〈くり〉



〈くり園の計画的な改植〉

『完熟きんかん経営』

- ・東臼杵地域
- ・面積 : 62a
- ・労働力 : 2 名 (本人 + 常勤雇用 1 名) + 臨時雇用 3 名 (繁忙期)
- ・農業所得 : 約350万円 (完熟きんかん)
- ・具体的な取組
 - ▷ 冷涼な気候を生かし、高品質な大玉きんかんを生産
 - ▷ 出荷時期の調整による労力分散、低樹高仕立等による作業の効率化などにより安定生産を実現
 - ▷ 経営資源の承継による規模拡大と輸出に対応した生産を実施



〈きんかん〉



〈きんかんの低樹高仕立て〉

③茶

県の取組

- 釜炒り茶に加え、ウーロン茶・和紅茶など、**地域の特色を活かした茶種の生産**を推進
- 輸出に対応できる**有機JAS認証茶園**を拡大
- 生産者の高齢化や減少といった人手不足、傾斜地での非効率な生産などが課題となっていることから、作業の省力化に向け、**山間地域の茶園に適した乗用型機械や製茶機械の導入**などを支援

- ・ 西臼杵地域
- ・ 面積 : 5 ha
- ・ 労働力 : 家族経営 4 名 + 臨時雇用 6 名（繁忙期）
- ・ 農業所得（茶のみ） : 約 850 万円
- ・ 具体的な取組
 - ▷ ウーロン茶・和紅茶などの生産により、二番茶及び三番茶の高付加価値化を実現
 - ▷ 早晚性の品種組み合わせにより、摘採と加工製造時期の労働力を分散
 - ▷ 茶園のうねの端で機械がUターンするスペースを新たに設けるなど、乗用型機械に適した茶園づくりにより作業の省力化と効率化を実現



＜萎凋機によるウーロン茶の生産＞



＜機械利用に適した茶園＞

④畜産

県の取組

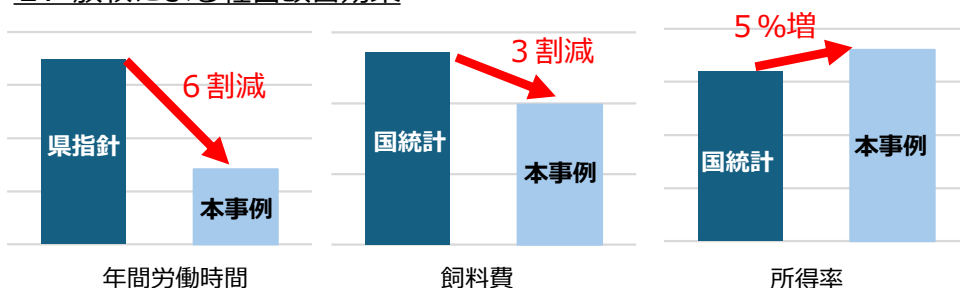
- 肉用牛では、立地条件に制約がある中、**飼養管理の省力化や飼料費の低減等につながる放牧**の取組を推進。また、雛や飼料、食鳥処理、流通販売まで総合管理されたインテグレーション体制のもと、**限られた経営面積でも安定的な所得が確保できるブロイラー経営**を推進
- 肉用牛では、飼料価格が高騰する中、更なる放牧の推進を図るため、**草地造成や電気牧柵設置等**を支援。ブロイラーでは、新規参入や規模拡大、生産性向上を図るため、**鶏舎整備や暑熱対策等**を支援

『 肉用牛経営 』

1. 概要

- ・西臼杵地域
- ・飼養規模、労働力：母牛20～50頭規模、家族経営2人
- ・放牧面積：約5～10ha ※山林や耕作放棄地等を造成
- ・農業所得：400～600万円
- ・具体的取組
 - ▷朝夕2回の畜舎内での繁殖管理以外は、母牛全頭を放牧
 - ▷分娩監視システムを活用し、分娩間隔の短縮を実施

2. 放牧による経営改善効果



＜地形を活用した放牧＞

『 ブロイラー経営 』

1. 概要

- ・南那珂地域
- ・飼養規模：約3万羽（3棟）
（1棟あたり10m×60m）
- ・労働力：1名+臨時雇用2名（繁忙期）
- ・農業所得：約700万円
- ・具体的取組
 - ▷平場にある居住地から山間部の鶏舎に通勤し、飼養管理を実施。
 - ▷現在、新たに鶏舎を整備し、5万羽への規模拡大を計画中。
 - ▷埋却地は鶏舎のある山間部では確保できず、離れた場所に確保。



＜ブロイラー鶏舎内部＞

2. インテグレーションの仕組み

